

ライフケアガーデン熱川 本館

症例概要 利用者:90代 女性 要介護4

病名:右大腿骨転子部骨折(2019.6月下旬受傷)、認知症

経過:夫が他界した後、S市で長男家族と暮らしていた。東日本大震災で転倒し頭部を打った後遺症で右半身にしびれが残った。その後、T県の長女宅の近くで独居を始め、さらに旅行で気に入ったI市に家を購入され、移り住んでいた。2016年頃から火の消し忘れなど認知症状が出始め、介護申請を行った。人と関わることが好きではなく、説得されながら、デイサービスに通われていたが、主介護者である長女が体調を崩しがちとなり、認知症状がさらに進んだため、当ホーム入居となった。

内 容

利用者さんは2019年6月に右大腿骨転子部骨折のためI病院に入院。その後、リハビリ目的で7月にA病院に転院、10月に当ホームに戻り入居となりました。受傷前は、独歩で自立していましたが、退院時は、ピックアップ歩行器を使用。それでも、右大腿部の痛みが残存するため、あまり自分からは動かなくなっており、リハビリにも消極的で、ほぼ座りっきりの生活でした。そして、認知症状がさらに進んで、あまり人と交わりを持たなくなっていました。

元々、自然が好きでI市に移り住んでいましたが、ご自宅では、趣味としてガーデニングを楽しまれていました。そこで、人との交流を好まれない中で、自室内にお花の鉢植えを少しずつ持ち込まれ、ご自宅にいらっしゃった時のように、水やりなどの植物のお世話が、再び習慣になってきました。さらに、以前に買われて戸棚にしまわれていた植物の図鑑を持ち出され、眺めることが楽しみとなってきました。

よく動かれるようになり、転倒のリスクが高まったこともあったため、以前は拒否的であった日中ロビーで過ごされることを改めて提案すると、気分が明るくなってきたためか、今度は受け入れてもらえ、スタッフや入居者さん同士の会話が生まれました。また、リハビリの受け入れも良くなり、筋力トレーニングや歩行練習にも取り組まれるようになりました。すると、痛みが軽減してきて、さらに趣味に夢中になることで、気付くと何もつかまらずに水やりを行ったりすることができるようになっていました。すると、居室内は歩行器なしでの歩行移動が可能となり、転倒のリスクは抑えられるようになりました。



90歳を超えてからの骨折で、寝たきりのリスクが高く、再入居後はふさぎこみがちでありましたが、ホームでの生活の中で、趣味の再開や、転倒リスクの軽減により、明るい気持ちを取り戻され、笑顔のある前向きな生活を送られるようになりました。